

## 第5回日本小児診療多職種研究会 プログラム・抄録集

訂正・変更のご連絡

### 「訂正」

下記につきまして、訂正が生じております。

謹んでお詫び申し上げますとともに、ここにご説明申し上げます。

第5回日本小児診療多職種研究会運営事務局

#### 1：166 ページ 演題番号 2-F-18

演者：日本保健医療大学 坂本美香 先生

演題名：ペアレントトレーニングへの参加報告-作業療法士による実践を目指して-  
掲載の抄録が異なっておりました。謹んでお詫び申し上げます。

正規の抄録を記載させていただきます。

平成 X 年 6 ～ 12 月の期間、某大学併設のクリニックで小児科医によるペアレントトレーニング（以下；PT）が実施された。スタッフとして作業療法士（以下；OTR）が参加する機会を得た。OTR による実践を踏まえ、OTR が参加する意義も含めて PT の経過を報告する。プログラムは上林ら（中央法規 2012）に準じた内容で、90 分 / 回を 10 回、各週の頻度で実施された。OTR は感覚-運動発達の視点から介入した。小学校 1 ～ 4 年生の母親 4 名と祖母 1 名の計 5 名の参加で始まった。保護者の行動変容の評価指標として家族の自信度アンケートを、子どもの評価指標として ADHD-RS を PT の前後で実施した。またプログラム終了時に PT 及び作業療法に関するアンケートを実施した。結果、ADHD-RS の平均スコアは PT 後に低値を示したが、Dupaul（1998）の標準データを参照にすると、いずれも標準値を上回っていた。家族の自信度に関しては、PT 前は、「子どもの行動や考えを理解できる」項目は、全員が「自信がない」と回答していた。PT 後は全員自信度が改善していた。アンケートからは、子どもに対する気持ちや、対応の仕方等の保護者自身の変化と、ピアカウンセリングやエンパワメント的な効果があげられていた。OTR が関与することで、子どもの機能面に対してのアプローチも可能となり、ターゲットとした問題行動を軽減させる従来の PT 効果に加え、それ以外の問題行動の軽減や、今後問題となることが予測される行動の抑制等、行動的般化がより効果的に進むことが期待できると考えた。

#### 2：12 ページ 座長一覧 ランチョンセミナー3

（共催：ジャパンワクチン株式会社/第一三共株式会社様）の座長

正しくは

井田博幸先生（東京慈恵会医科大学小児科学講座 主任教授）でございます。

## 「変更」

下記変更が発生しておりますのでご報告申し上げます。

第5回日本小児診療多職種研究会運営事務局

### 1：発表順序変更

104 ページ・105 ページ 演題番号 1-E-6 と 1-E-7

発表順序が 1-E-7 のあとに 1-E-6 のご発表となります。

### 2：発表者変更

一般演題 1-F-27

「小児外科医と取り組んでいる上部尿路感染症罹患後の児に対する管理の実際」

発表者：岡田隆文先生 → 中村直子先生に変更となります。

### 3：発表時刻変更

110 ページ 一般演題 1-F-5

演者：松裏裕行先生

演題名：動画と広報用カードを用いた小児救急の啓発活動のご紹介

7月30日 10：00-12：00 のご発表→13：00-18：00 の最後（1-F-39 のあと）での  
ご発表となります。